

二月

高野長英記念館の風景

向春の候

今年の暦では2月3日が立春 暦の上では春の始まり 草木も少しずつですが春に向けて準備をしています 市内の老舗和菓子店では 春のかわいい和菓子「鶯餅」が並んでいました 「鶯餅」をいただきながら 春の到来を心から待ち望みたいと思います 【撮影:1月28日】



霜のついたサツキの葉



霜柱

*霜(しも)は夜間や早朝の気温が下がり、空気中の水蒸気が物体に触れてできる細かな氷です。地中の水分が凍って地表面を持ち上げてできたのが霜柱です。先日、生まれて初めて霜柱を見て、踏んだという気象予報士の方の話を伺い、驚きました。



白梅



紅梅



サクラ



カンギク

高野長英の手紙

従弟茂木恭一郎への手紙（1841年・天保12年2月8日）

長英、入牢3年目、数え年38歳。自分が永牢の身となり、江戸に呼び一緒に生活していた母美也の安否を気遣っています。出牢までは、母親の面倒を従弟の恭一郎に依頼しています。永牢になった事情を「蛭社遭厄」に記し、米吉に手紙とともに託しています。